

# 学校法人 柏 専 学 院

## 平成25年度事業報告

### 目 次

第1部	学校法人柏専学院の概要	.....	P 1
	Ⅰ. 設置する学校、学部、学科等		
	Ⅱ. 学生数の状況		
	Ⅲ. 役員、教職員の概要		
	Ⅳ. 理事会開催状況		
第2部	事業の概要	.....	P 3
	Ⅰ. 新潟産業大学 経済学部		
	1. 教育		P 3
	2. 研究		P 4
	3. 学生への支援		P 5
	4. 留学生支援		P 8
	5. 学生募集及び入学試験		P11
	6. 地域貢献・生涯学習		P12
	7. 国際交流		P18
	8. 附属図書館		P18
	9. FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及び SD (スタッフ・ディベロップメント)		P20
	10. 施設開放		P21
	Ⅱ. 新潟産業大学 大学院 経済学研究科		P22
	Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校		P23
	1. 「教育等の事業」の概要		
	2. 今年度の実績		
	3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ		
	4. 生徒募集		
	5. 新規取組事項		
第3部	財務の概要	.....	P31

# 第 1 部 学校法人柏専学院の概要

## I. 設置する学校、学部、学科等

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	開設年度	備考
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	昭和 6 3 年度	入学定員 90 人 収容定員 360 人
		文化経済学科	平成 2 1 年度	入学定員 70 人 収容定員 280 人
	大学院 経済学研究科	経済分析・ビジネス専攻	平成 1 6 年度	入学定員 10 人 収容定員 20 人 ※修士課程
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		昭和 3 3 年度	入学定員 160 人 収容定員 480 人

## II. 学生数の状況

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部等	学科等	学年	学生数	
新潟産業大学	経済学部	経済経営学科	1 年	4 1	
			2 年	5 2	
			3 年	6 1	
			4 年	8 0	
		文化経済学科	1 年	4 2	
			2 年	3 0	
			3 年	3 3	
			4 年	5 7	
	合計( 大学 )			3 9 6	
	大学院	経済学研究科	1 年	1 1	
2 年			5		
合計(大学院)			1 6		
新潟産業大学 附属高等学校	全日制課程普通科		1 年	1 4 2	
			2 年	1 6 2	
			3 年	1 2 0	
	合計( 高校 )			4 2 4	
総 計			8 3 6		

### Ⅲ. 役員、教職員の概要

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

		現 員					
役員等	理事	監事	役員合計		評議員		
	1 1	2	1 3		2 4		
教員・教諭	大学				高校		
	専任				非常勤	専任	非常勤
	大学院	経済学部	合計				
	9 (併任)	3 0	3 0		3 3	2 8	1 2
職員	大学				高校		
	専任	嘱託	臨時	合計	専任	嘱託	臨時
	2 7	2	3	3 2	4	—	—

### Ⅳ. 理事会開催状況

回数	開催日	理事定数 8~11 名 (現員 11 名) 監事定数 2 名 (現員 2 名)		議題、報告事項
		出席理事	出席監事	
第 1 回	H25.4.1	1 1 人	2 人	議題 1.理事長、副理事長、常務理事の選任 2.理事分掌
第 2 回	H25.5.30	1 1 人	2 人	議題 1.平成 24 年度事業報告 2.平成 24 年度決算 3.平成 25 年度当初予算の一部変更 4.評議員の選任 5.規程改正 報告 1.資金運用状況 2.民事裁判の経過
第 3 回	H25.5.30	1 1 人	2 人	議題 1.平成 25 年度当初予算の一部変更
第 4 回	H26.1.31	1 1 人	2 人	議題 1.懲戒処分 2.大学人事 3.附属高等学校長の任命 4.規程改正 報告 1.平成 26 年度入試状況 2.平成 25 年度卒業生就職・進路状況 3.民事裁判の結果
第 5 回	H26.3.26	1 1 人	2 人	議題 1.平成 26 年度事業計画 2.新潟産業大学収容定員変更 3.平成 25 年度第 1 回補正予算 4.平成 26 年度当初予算 5.理事、監事、評議員の選任 6.参与の選任 7.大学、高校人事 8.資金運用管理方針 報告 1.附属高等学校講堂棟及び特別教室棟耐震補強工事、並びに特別教室棟エアコン設置に係る業者の指名
第 6 回	H26.3.26	1 1 人	2 人	議題 1.平成 26 年度事業計画 2.平成 25 年度第 1 回補正予算 3.平成 26 年度当初予算 報告 1.平成 26 年度入試状況 2.平成 25 年度卒業生就職・進路状況

## 第2部 事業の概要

### I. 新潟産業大学 経済学部

#### 1. 教育

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1) 教育環境の整備と質の確保	<p>①新カリキュラム施行 平成 25 年度より新カリキュラムを施行した。 新カリキュラムは、第一に、二つの学科をとおして、コンパクト・ユニバーシティに見合ったコンパクトかつ高質な内容をめざして科目の精査を行い、科目名の統一、科目間の関連の明確化、難易度の整序、そして全体の体系性のより一層の高度化を図った。第二に、本学のミッションである「地域社会や企業を主体的に力強く支える人材の育成」に基づき、「人づくり」と「まちづくり」に志向したカリキュラム編成を行った。第三に、文化経済学科のカリキュラムについては、文化経済学の学問体系をより忠実に反映するように編成替えを行った。</p> <p>こうした新カリキュラムのもと、本年度は文化経済学の観点から地域経済と文化とのさまざまな関わりを具体的に学べるよう、地域の経済人や文化人を外部講師に招き、公開授業等を行った。また、フィールド・ワークを通してそれらを実地に見聞したゼミナールも複数あった。</p> <p>②教育機器の整備 プレゼンテーション・PR能力向上を目的に、デザイン系ソフト「Adobe Photoshop Illustrator In Design」を本学プレゼンテーションルームに導入した。また、統計処理ソフトや映像機器ブルーレイを購入するなど、教育機器の充実を図った。</p> <p>③社会人学生の受講環境整備 社会人学生を対象に平日夜間授業を実施した。また、平成 25 年度からの新カリキュラム施行に併せ、社会人学生の授業選択傾向を踏まえた社会人学生のための卒業要件を定めた。</p> <p>その他、平成 19 年度から導入した長期履修制度は、ほぼすべての社会人学生が利用しており、時間的制約の多い社会人学生の受講形態として定着している。</p>

(2) 学習支援の充実	<p>①資格取得支援の強化 この実施項目は、「3. 学生への支援の(5)資格検定等支援～学生の付加価値づくり～」において報告する。</p> <p>②リメディアル教育の充実 リメディアル教育に関する授業科目として、「生活数学」(公文式)を配置した。</p> <p>③学内情報 I T 利用化の推進 ア.学生の授業出欠情報を学内ネットワークに掲載することにより、各教員が担当学生の授業出席状況を随時確認し、必要な指導等を行える体制をとった。 イ.W e b シラバス編集を実施した。</p>
-------------	---

## 2. 研 究

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)紀要の発行	<p>①経済学部紀要第 42 号 を平成 25 年 6 月に発行した。 執筆者 題 目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星野 三喜夫 途中参加国日本の交渉力が試される TPP 交渉</li> <li>・ウリジバヤル 『イフ・フフ・トグ』 誌について</li> <li>・小林 健彦 古代日本語に記録された災害情報としての疫病 ～「日本書紀」、「続日本紀」に見る用語運用と災害対処の文化論～</li> <li>・堀口 俊二 土倉・堀口法(村瀬義益・ニュートン型の第一拡張漸化式)から得られる平方根,立方根の冪乗の連分数表示</li> <li>・橋本 次郎 「生活数学」の教育効果(続編)</li> </ul> <p>②経済学部紀要第 43 号 を平成 26 年 2 月に発行した。 執筆者 題 目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江口 潜 辛口のカレーと甘口のカレー:製品差別化がある財・サービスの市場についての一考察</li> <li>・渡邊 孝一郎 商業者によるまちづくり活動の意義に関する実証研究</li> <li>・小林 健彦 新羅国の文武王と倭国 ～文武王の海中王陵に見る対日観～</li> <li>・小林 健彦 浪分けの論理 前篇 ～文化論としての震災への対処～</li> <li>・堀口 俊二 Halley 法と拡張 Halley 法(土倉 1・堀口・村瀬・Halley 法)の収束比較式 I (等式の場合)とその数値計算</li> </ul>
(2)競争的外部資金の獲得	<p>①平成 25 年度科学研究費助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川本真哉 「MBO による株式非公開化のパフォーマンス改善効果に関する実証分析」1,430,000 円</li> <li>・高橋眞一 「地域からみた日本の低出生力化(少子化)の研究」520,000 円</li> <li>・高橋眞一 名古屋大学分担金 910,000 円</li> <li>・高橋眞一 島根大学分担金 234,000 円</li> </ul>

	<p>②科学研究費申請に係る学内講習会開催  日時：平成 25 年 7 月 24 日（水）  会場：本学第 1 会議室  講師：高橋眞一 客員教授（科研費委員会専門委員神戸大学名誉教授）  参加教員：21 人</p> <p>③内田エネルギー科学振興財団助成金  ・藤井信行「エネルギーと環境問題」および「分光シートを用いた万華鏡作成 他」 150,000 円</p>
--	---

### 3. 学生への支援

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)学生行事・学生活動	<p>①学園祭など学生主催行事に対する支援  ア. 学友会・学生行事实行委員会ミーティングにおいて、学生課職員が学生行事等の企画に対する指導助言を行った。  イ. 学園祭の企画立案について、新規企画や集客を図るための方策、広告・協賛金依頼方法など指導を行った。  ウ. 学生企画の「産大カップ（バレーボール大会）」（8 チームが参加した。）や「クリーンデー柏崎 in 産大」、「クリスマスパーティー」などに助言を行った。</p> <p>②公認部・サークル活動の活性化  学生の公認部・サークル活動の活性化を推進し、その結果学生の加入率が、平成 24 年度 77%から平成 25 年度 80%に上がった。  ア. 新入生学外合宿研修において、先輩部員によるサークルの紹介を実施するとともに、学生課にて新入生に対し「課外活動見学会の希望調査」を実施し、新入生に部・サークル加入を働きかけた。  イ. 新年度ガイダンス及び 1 年次必修科目「基礎ゼミナール」の授業時に部活動・サークル活動の大切さを説明した。</p> <p>③「学生相談」の充実  ア. 学生課医務室職員（看護師・保健師）が、健康相談及びメンタルヘルスの対応を行った。  イ. 学校医（精神科医師）と専門医（心身医療科医師）によるカウンセリングを毎月 3～5 回実施した。  ウ. 基礎ゼミ担任と C L A（事務職員キャンパスライフアドバイザー）協働で学生生活個別面談を実施した。  エ. 全教員によるオフィスアワーを実施した。  オ. 「学生意見箱」により、学生からの意見・要望収集を行った。投書された意見に対しては学生課掲示板に回答を掲示した。</p>

<p>(2)経済的支援及び学費軽減</p> <p>※外国人留学生については 4. 留学生支援において報告。</p>	<p>①経済的理由により修学困難な学生の授業料を軽減した。          ②人物・学業成績優秀な学生の授業料を軽減した。          ③スポーツ・文化活動で活躍する学生の授業料を軽減した。</p> <p>【表】学年別学費軽減者数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="531 369 1414 716"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">①経済的理由</td> <td>授業料半額減免</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">②学業成績優秀者</td> <td>授業料半額減免</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>授業料全額免除(4年間)</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③スポーツ・文化活動</td> <td>授業料半額減免</td> <td>19</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>④大学契約借上げアパートを学生に安価で提供し、経済的負担軽減を行った。</p>			1年生	2年生	3年生	4年生	①経済的理由	授業料半額減免	10	1	2	3	授業料全額免除(4年間)	3	6	1	2	②学業成績優秀者	授業料半額減免	6	13	4	4	授業料全額免除(4年間)	6	1	3	1	③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	19	7	7	11
		1年生	2年生	3年生	4年生																														
①経済的理由	授業料半額減免	10	1	2	3																														
	授業料全額免除(4年間)	3	6	1	2																														
②学業成績優秀者	授業料半額減免	6	13	4	4																														
	授業料全額免除(4年間)	6	1	3	1																														
③スポーツ・文化活動	授業料半額減免	19	7	7	11																														
	<p>(3)学外団体との連携</p>	<p>①スポーツ競技団体や文化団体との連携支援          水球部、卓球部、ライフセービング部、バスケットボール部、伝統芸能文化部、写真部、茶道部、書道部が、地域の団体や高校等と合同練習や連携活動を実施するための支援を行った。</p> <p>②地域のボランティア活動等諸団体との連携支援          各種団体からの学生に対するボランティア活動の依頼に対し、学生課が窓口となり、ポスター掲示等学生周知を行った。学友会・学生行事実行委員会、青年赤十字奉仕団、水球部・卓球部・ライフセービング部などが柏崎地域でのボランティア行事に参加するための支援を行った。</p> <p>③父母の会及び校友会との連携支援          ア. 父母の会総会時に、学生の修学状況等を保護者に報告した。また、就職情報企業から講師を招き、保護者に対し就職に関する情報提供を行った。総会后、保護者と教職員の懇親会を開催した。その他、父母の会各支部総会に教員を派遣した。          イ. 校友会総会には、吹奏楽部や留学生を派遣した。</p> <p>④新潟工科大学と本学学生との交流支援          柏崎市民有志による2大学新入生合同歓迎会の企画及び運営を学友会学生と教職員が協働で行った。</p>																																	
<p>(4)就職支援</p>	<p>①早期の職業適性把握と職業観の育成          本年度入学者より、学生個々の大学生生活の充実と主体的なキャリア形成を促すことを目的とした「キャリアポートフォリオ」を導入した。</p> <p>②保護者に対するキャリア相談利用の積極周知          入学時の就職ガイダンス(保護者同伴)において、保護者のキャリア面談利用を積極的に周知した。また就職活動に取り組みない4年生につ</p>																																		

	<p>いて積極的に保護者と面談を行い、連携して就職支援を実施することにより、内定率 100%（就職希望者）を達成した。</p> <p>③DVD就職教材の充実 就職活動支援の各種ビデオ教材のDVD版への更新を行うことにより、就職課パソコンを利用して同時期に複数学生の視聴対応を可能とした。また、就職ガイダンス時に内容に応じたDVDの視聴を取り入れることにより学生の理解度の向上を図った。</p>																																																
<p>(5)資格検定等支援 ～学生の付加価値 づくり～</p>	<p>学生の資格・検定等の取得支援について以下のとおり実施した。</p> <p>1. 対策講座の実施</p> <table border="0"> <tr> <td>①日商簿記検定 3 級講座</td> <td>全 3 回（延 30 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>19 人</td> </tr> <tr> <td>②経営学検定講座</td> <td>全 2 回（延 12 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>12 人</td> </tr> <tr> <td>③ERE 経済学検定講座</td> <td>全 1 回（8 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>④MOS 講座</td> <td>全 4 回（延 40 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>39 人</td> </tr> <tr> <td>⑤TOEIC 講座</td> <td>全 2 回（延 16 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>5 人</td> </tr> <tr> <td>⑥公務員講座</td> <td>全 1 回（13 コマ）</td> <td>…受講者数延</td> <td>10 人</td> </tr> <tr> <td>⑦介護職員初任者研修（ニチイ学館にて実施）</td> <td></td> <td>…受講者数延</td> <td>6 人</td> </tr> </table> <p>2. 検定試験の学内実施</p> <table border="0"> <tr> <td>①漢字能力検定</td> <td>全 2 回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延 20 人</td> </tr> <tr> <td>②ハングル能力検定</td> <td>全 2 回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延 6 人</td> </tr> <tr> <td>③中国語検定</td> <td>全 3 回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延 15 人</td> </tr> <tr> <td>④経営学検定</td> <td>全 2 回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延 20 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ERE 経済学検定</td> <td>全 2 回実施</td> <td>…受検者数</td> <td>延 6 人</td> </tr> </table> <p>3. 資格等取得奨励奨学金の給付 延 14 人に奨学金を給付した。給付を受けた学生数の内訳は、日商簿記検定 2 級 3 人・3 級 5 人、ハングル能力検定準 2 級 1 人・3 級 1 人、英検 2 級 1 人、経営学検定初級 3 人だった。</p>	①日商簿記検定 3 級講座	全 3 回（延 30 コマ）	…受講者数延	19 人	②経営学検定講座	全 2 回（延 12 コマ）	…受講者数延	12 人	③ERE 経済学検定講座	全 1 回（8 コマ）	…受講者数延	1 人	④MOS 講座	全 4 回（延 40 コマ）	…受講者数延	39 人	⑤TOEIC 講座	全 2 回（延 16 コマ）	…受講者数延	5 人	⑥公務員講座	全 1 回（13 コマ）	…受講者数延	10 人	⑦介護職員初任者研修（ニチイ学館にて実施）		…受講者数延	6 人	①漢字能力検定	全 2 回実施	…受検者数	延 20 人	②ハングル能力検定	全 2 回実施	…受検者数	延 6 人	③中国語検定	全 3 回実施	…受検者数	延 15 人	④経営学検定	全 2 回実施	…受検者数	延 20 人	⑤ERE 経済学検定	全 2 回実施	…受検者数	延 6 人
①日商簿記検定 3 級講座	全 3 回（延 30 コマ）	…受講者数延	19 人																																														
②経営学検定講座	全 2 回（延 12 コマ）	…受講者数延	12 人																																														
③ERE 経済学検定講座	全 1 回（8 コマ）	…受講者数延	1 人																																														
④MOS 講座	全 4 回（延 40 コマ）	…受講者数延	39 人																																														
⑤TOEIC 講座	全 2 回（延 16 コマ）	…受講者数延	5 人																																														
⑥公務員講座	全 1 回（13 コマ）	…受講者数延	10 人																																														
⑦介護職員初任者研修（ニチイ学館にて実施）		…受講者数延	6 人																																														
①漢字能力検定	全 2 回実施	…受検者数	延 20 人																																														
②ハングル能力検定	全 2 回実施	…受検者数	延 6 人																																														
③中国語検定	全 3 回実施	…受検者数	延 15 人																																														
④経営学検定	全 2 回実施	…受検者数	延 20 人																																														
⑤ERE 経済学検定	全 2 回実施	…受検者数	延 6 人																																														



## 4. 留学生支援

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)生活及び学習支援	<p>①学生チューターによる生活・学習指導            チューターは 8 人（日本人 6 人・中国留学生 1 人・韓国留学生 1 人）が、週 1 回、チューターのミーティングを行い、留学生との交流活動の計画、留学生のための生活指導等を実施した。</p> <p>②教職員による生活・学習相談            1 年次の「基礎ゼミナール」、2 年次の「プレゼミナール」において、担任教員と C L A（キャンパスライフアドバイザー）が留学生の個別面談を実施し、生活面と学習面の指導を行った。また、ゼミナール担当教員、学生課職員等が留学生の相談窓口となって、個別相談に応じた。</p> <p>③留学生ガイダンスでの生活指導            年 2 回、学期始めに全留学生を対象とする留学生ガイダンスを開いた。また、1 月には卒業予定者に向けて卒業前後の諸手続きに関する説明資料を学生課窓口にて個々に説明し、全員に手渡した。</p> <p>④日本語補習授業の実施            日本語能力不足の留学生に対し、学生チューターによる日本語補習授業を実施した。            春学期：4 月 19 日～7 月 19 日、3 クラス週 6 コマ、7 人受講            秋学期：10 月 7 日～12 月 18 日、2 クラス週 8 コマ、3 人受講</p> <p>⑤日本語能力検定試験受験の奨励            年 2 回行われる日本語能力検定試験の受験を希望する留学生に対し、大学で受験申込を代行した。また、N1・N2 試験対策説明会及び模擬試験を実施した。            春学期：42 人受験 N1 検定 4 年 2 人、3 年 1 人、交換留学生等 5 人合格。            N2 検定 4 年 6 人、セミナー生 1 人合格。            秋学期：30 名受験 N1 検定 3 年 2 人、交換留学生 1 人合格。            N2 検定 3 年 1 人、1 年 3 人合格。日本語短期留学セミナー生 1 人合格。</p> <p>⑥入国管理局に対する在留関連申請の取次業務            申請取次は在留資格更新を 32 件（中国 29、韓国 2、コスタリカ 1）、在留資格変更を 1 件（中国 1）、資格外活動許可を 40 件（中国 37、韓国 2、コスタリカ 1）行った。その他、在留資格認定証明書交付申請を 29 件（中国 15、台湾 11、モンゴル 2、韓国 1）行った。</p>

<p>(2)経済的支援</p>	<p>①私費外国人留学生授業料減免を実施 留年者を除く私費外国人留学生で、減免申請の許可が認められた留学生の授業料を 40%減免した。</p> <p>②日本語能力試験合格者（N1・N2）の学費減免 N1、N2 に合格した外国人留学生の以後の学期の学費をそれぞれ減免した。授業料は N1・N2 合格者とも 50%減免。教育充実費は N1 合格者全額免除、N2 合格者 40%減免。</p> <p>③私費外国人留学生への学習支援金の給付 2、3 年生で、他の奨学金を受給していない留学生を対象とし、申請のあった留学生のうち成績優秀者（評価係数により審査）上位 8 人に対して、学習支援金として各 80,000 円を給付した。</p> <p>④新入学外国人留学生全員に住居費補助及び通学費等補助の給付 日本での学習及び生活を円滑に始められるようにするため、1 年生全員に住居費補助（月額 10,000 円、最大年間 120,000 円）、通学費等補助（年額 30,000 円）を給付した。</p> <p>⑤外国人留学生向け宿舎の情報提供 アパート物件情報の収集時に、留学生入居の可否を問い合わせ、83 室の入居可の物件情報を新入留学生に提供した。</p> <p>⑥資格外活動の法令順守指導およびアルバイト求人確保 資格外活動についての法令順守指導をガイダンスや掲示にて行うと同時に、年 2 回の「アルバイト届」提出時にも重ねて指導した。また、留学生の日本語能力に応じたアルバイト求人確保に努めた。</p>
-----------------	---

(3)各種交流支援

①日本人学生と留学生との交流行事

新入留学生歓迎会（観桜会）、ボウリング大会、クリスマスパーティ、県内研修旅行（白根大凧合戦観戦ツアー、マリニピア日本海・新潟ふるさと村・弥彦神社ツアー）を開催し、日本人学生と留学生との交流の機会とした。

②地域社会及び地域の小中学校での国際交流

小・中学校における総合学習授業や文化活動団体の行事などに積極的に参加し、母国の文化紹介や相互交流を行った。

【地域における国際交流の実績】

日	派遣先	内容	人数
6月24日	柏崎第一中学校3年生	母国紹介、柏崎（日本）で感じたこと	3人
6月30日	高田コミセン	留学生との交流会	11人
10月13日	比角コミセン	比角ストリートフェスティバル	2人
10月26日	高田コミセン	ほっとたかだコミセン祭り	4人
11月8日	西山中学校3年生	国際交流学習会	1人
11月17日	高田コミセン	芸能大会	1人
11月23日	柏崎地域国際化協会	留学生フォーラム	8人
11月23日	刈羽小学校全学年	国際セミナー	2人
2月25日	比角小学校2年生	母国紹介、楽器演奏	1人

## 5. 学生募集及び入学試験

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)募集広報の見直し	<p>①県外での学生募集強化</p> <p>福島県にて委嘱した入試広報主幹が 138 回の募集活動を行った結果、同県から複数の受験があり、1 名の入学に繋がった。更に、進路指導担当教員が本校見学のために訪問するなど成果があった。</p> <p>また、強化指定部監督が全国各地の大会や高校を訪問した結果、スポーツ推薦入学者は 17 名と前年の 10 名を大幅に上回った。更に、後期からの募集活動となったが、サッカー部員の募集活動を行った結果、埼玉県と愛知県から各 1 名が入学した。</p> <p>②オープンキャンパス参加者増への取り組み</p> <p>ア. 参加者に対する平成 26 年度入試受験料半額減免 初めて実施し、結果的に利用者は 1 名のみであったが、進学校からの参加者もあり、参加のきっかけや話題提供に繋がったものとする。</p> <p>イ. 無料送迎バスの停車駅増 小千谷駅と柿崎駅で乗降できるようにした結果、小千谷駅での利用があった。</p> <p>ウ. オープンキャンパス参加者への学園祭模擬店チケットの配付 11 店で 7,900 円分の利用があり、16 人程度が利用したこととなった。遠方からの参加者もあり、本学理解の一助となり、学園祭の賑わいにも繋がった。</p> <p>エ. 学園祭でのミニオープンキャンパス開催 前年度は相談コーナーの設置のみであったが、今年はミニオープンキャンパスとして実施した。その結果、生徒 5 名、保護者 8 名の参加があり、4 名の入学に繋がった。</p> <p>③進学広報媒体の見直し</p> <p>企画内容、費用対効果等により、広報媒体の見直し変更を行った。</p> <p>ア. 認知度の低いラジオ CM や JR 中吊り広告を縮小した。</p> <p>イ. JR 主要駅に新たに階段広告を設置した。</p> <p>ウ. 新潟市内での知名度向上に向け、バス乗降口広告、車内ポスタージャック、バス車内放送を行った。バス車内放送については、長岡商業高校と柏崎常盤高校・柏崎総合高校路線にも導入した。</p> <p>エ. 女子生徒向けのパンフレットを 2 回作成し県内全高校に配布した。</p> <p>オ. センター試験受験者の利用が多い進学情報冊子に広告を掲載した。</p> <p>④高校訪問や進学説明会における大学 PR の改善</p> <p>ア. 教職員 2 名体制はそれぞれの立場から説明でき、本学の教育や各種制度等の理解に寄与したものとする。タブレット端末は進学説明会時に毎回設置し、生徒誘導や説明の一助となった。</p> <p>イ. 入試広報関連以外の教職員も積極的に高校訪問を行い、東京の日本語学校や佐渡の高校訪問、12 月以降の訪問を実施した結果、前年度の倍以上の 288 回の高校訪問となった。</p> <p>ウ. 柏崎総合高校において教員 8 名による出張講義を 19 回実施した。その他の中学生・高校生対象授業を含めると 37 回である。</p> <p>エ. サッカー部は年度途中からの募集となったが、高校サッカー部顧問等への勧誘活動により 6 名が入学した。</p> <p>⑤新潟県大学経営改善支援事業補助金の活用</p>

	海外重点地域の多点化による外国人留学生とサッカー部監督招聘者（元Jリーガー）による学生募集事業を申請し、内蒙古自治区高校での日本語教育や台湾の高校・日本語学校訪問、サッカー部入部学生の募集活動を行った結果、同事業に対し28万円の補助金交付が決定した。
(2)入試制度の見直し	<p>①自己推薦入試の変更</p> <p>ア. ここ数年受験者のいなかった自己推薦入試について、従来の小論文試験を課す形式から、指定5科目の評定平均値のうち1科目でも3.3以上あれば面接試験を受験できるよう変更し、更に11月に加え2月にも受験日程を増設した結果、新設の後期日程で6名の受験があった。本来ならAO受験となった生徒であり、受験生にとっても本学にとっても負担軽減に繋がり、成果を上げることができた。</p> <p>②センター試験利用日程の変更</p> <p>3期制にした結果、新設の2期に4名の出願があったが、総出願数は23名で前年度に比べて1名の減であった。</p>
(3)留学生の確保	<p>①本学への留学指導料の導入</p> <p>同制度対象の内モンゴル地区高校から1名の入学があった。</p> <p>②新たな外国人留学生受け入れ先の開拓</p> <p>ア. 台湾の高校2校、日本語学校3校、韓国の日本語学校2校、編入学学校1校と覚書を締結するとともに、台湾には本学教員が2回訪問し、生徒への説明会や関係者との情報交換を行った。</p> <p>イ. 中国赤峰市経棚蒙古族中学において、現地在住の日本語教員を新規採用し、本学留学に向け生徒の教育を継続した。</p> <p>ウ. モンゴル文化教育大学理事長、ネパール日本語学校関係者と面談し、情報収集を行った。</p> <p>エ. 昨年に続き国内の留学生向け説明会に参加し、長野県や東京都の日本語学校訪問を行なった。</p>

## 6. 地域貢献・生涯学習

事業項目	平成25年度実施内容																																																						
(1)生涯学習事業	<p>①「聴講講座」の実施</p> <p>本学の全授業のうちおよそ23%を市民に開放し、一科目から聴講できる「聴講講座」（単位取得はできない）を実施した。</p> <p>春学期は39講座を開放し、24講座に聴講があった。秋学期も39講座を開放し、20講座に聴講があった。No.の○印は、市民が聴講しやすい時間帯に特別に開講した平日夜間・土曜日講座である。</p> <p>ア. 聴講講座（春）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>講座名</th> <th>講師名</th> <th>受講者数</th> <th>期間</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>ビジネス&amp;生活英語Ⅰ</td> <td>星野 三喜夫</td> <td>6</td> <td>4/11～7/25</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>越佐文化論</td> <td>三井田 忠明</td> <td>10</td> <td>4/8～7/29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>民法A</td> <td>山崎 修</td> <td>1</td> <td>4/8～7/29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>基礎中国語A</td> <td>詹 秀娟</td> <td>1</td> <td>4/9～7/23</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>基礎韓国語A</td> <td>金 光林</td> <td>1</td> <td>4/8～7/29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中国語演習Ⅰ</td> <td>詹 秀娟</td> <td>3</td> <td>4/8～7/29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>環境経済学</td> <td>阿部 雅明</td> <td>1</td> <td>4/10～7/24</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>基礎韓国語会話A</td> <td>蓮池 薫</td> <td>1</td> <td>4/10～7/24</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数	①	ビジネス&生活英語Ⅰ	星野 三喜夫	6	4/11～7/25	15	2	越佐文化論	三井田 忠明	10	4/8～7/29	15	3	民法A	山崎 修	1	4/8～7/29	15	4	基礎中国語A	詹 秀娟	1	4/9～7/23	15	5	基礎韓国語A	金 光林	1	4/8～7/29	15	6	中国語演習Ⅰ	詹 秀娟	3	4/8～7/29	15	7	環境経済学	阿部 雅明	1	4/10～7/24	15	8	基礎韓国語会話A	蓮池 薫	1	4/10～7/24	15
No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数																																																		
①	ビジネス&生活英語Ⅰ	星野 三喜夫	6	4/11～7/25	15																																																		
2	越佐文化論	三井田 忠明	10	4/8～7/29	15																																																		
3	民法A	山崎 修	1	4/8～7/29	15																																																		
4	基礎中国語A	詹 秀娟	1	4/9～7/23	15																																																		
5	基礎韓国語A	金 光林	1	4/8～7/29	15																																																		
6	中国語演習Ⅰ	詹 秀娟	3	4/8～7/29	15																																																		
7	環境経済学	阿部 雅明	1	4/10～7/24	15																																																		
8	基礎韓国語会話A	蓮池 薫	1	4/10～7/24	15																																																		

⑨	韓国語入門Ⅰ	蓮池 薫	5	4/8～7/29	15
10	観光資源論	金 光林	2	4/10～7/24	15
11	韓国語会話 A	金 光林	3	4/10～7/24	15
12	文化経済学Ⅱ	梅澤 精	1	4/11～7/25	15
⑬	スポーツ実習(登山・ウォーキング)	小黒裕二・広川俊男	1	5/19,6/9,23,	3
⑭	事例で学ぶマーケティング論Ⅰ	渡邊 孝一郎	3	4/10～7/24	15
⑮	モンゴル語Ⅰ	ウジハヤル	3	4/8～7/29	15
⑯	韓国語と韓国文化への理解Ⅰ	金 光林	3	4/8～7/29	15
17	奈良時代の美術	片岡 直樹	2	4/11～7/25	14
18	日本の芸術	片岡 直樹	4	4/19～7/26	14
19	韓国経済論	権 五景	2	4/12～7/26	15
20	ヨーロッパ文化史	梅比良 眞史	4	4/12～7/26	15
21	基礎中国語会話 A	詹 秀娟	1	4/10～7/24	15
22	韓国語演習Ⅰ	蓮池 薫	5	4/11～7/25	15
23	西洋の芸術	梅比良 眞史	1	4/11～7/25	15
24	社会学	梅澤 精	1	4/12～7/26	15
		受講者計	65		

イ. 聴講講座 (秋)

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
①	ビジネス&生活英語Ⅱ	星野 三喜夫	10	9/26～1/16	15
2	日本の伝統芸能	三井田 忠明	5	9/20～1/17	15
3	韓国文化事情	蓮池 薫	4	9/26～1/16	15
4	基礎中国語 B	詹 秀娟	1	9/24～1/21	15
5	基礎韓国語 B	金 光林	1	9/24～1/21	15
6	中国語演習Ⅱ	詹 秀娟	3	9/24～1/21	15
7	日本文化論	小林 健彦	1	9/20～1/17	15
8	基礎韓国語会話 B	蓮池 薫	1	9/25～1/22	15
⑨	韓国語入門Ⅱ	蓮池 薫	9	9/23～1/20	15
10	アジアの観光資源	金 光林	1	9/24～1/21	15
11	韓国語会話 B	金 光林	2	9/25～1/22	15
12	奈良時代の美術Ⅱ	片岡 直樹	3	10/3～1/16	14
13	東洋の芸術	片岡 直樹	3	9/27～1/17	14
14	ヘルスサイエンス	岡田 奈緒子	2	9/26～1/16	15
15	対外交渉史	小林 健彦	2	9/25～1/22	15
16	非営利組織論	池井 豊	1	/20～1/17	15
17	欧米文化論	梅比良 眞史	3	9/25～1/22	15
18	統計学Ⅰ	橋本 次郎	1	9/23～1/20	15
⑰	初級ミクロ経済学	宇都宮 仁	3	9/25～1/22	15
⑱	モンゴル語Ⅱ	ウジハヤル	2	9/23～1/20	15
		受講者計	55		

※平日夜間および土曜日講座以外の一般の講座は、学生履修登録者がいないと開講しない。よって、市民が聴講を希望しても学生の履修登録者がなく不開講になった講座については、担当教員が市民のために自主的に講座を開くこともあった。

ウ. 資格取得講座

カリキュラム上の授業とは別に、学生の資格取得を支援する講座である「TOEIC 受験対策支援講座」も春・秋2回「聴講講座」として市民に開放した。

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	「TOEIC 受験対策支援講座」Ⅰ	星野 三喜夫	5	6/4～7/23	8
2	「TOEIC 受験対策支援講座」Ⅱ	星野 三喜夫	3	9/30～12/2	8
		受講者計	8		

②「公開講座」の実施

行政や各機関との連携を図り、「公開講座」を実施した。柏崎市主催の公開講座「かしわざき市民大学」やJCV(上越ケーブルビジョン)およびミルフォ(刈羽村ケーブルテレビ)主催の公開講座プログラムへも教員を派遣した。

ア. 公開講座(柏崎市)市民プラザ

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	電気エネルギーの作り方	藤井 信行	4	9/14,21,28	3
2	エネルギーの考え方講座(かしわざきフォーラムのワークショップとして)	藤井 信行	9	10/26	1
		受講者計	13		

イ. 上越ケーブルビジョン・刈羽ケーブルテレビ、かしわざき市民大学等連携講座関係

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	日本美術史講座(かしわざき市民大学)	片岡 直樹	50	7/5,12,19,8/2	4
2	ヒット商品の裏側 マーケティング的思考のすすめ(かしわざき市民大学)	渡邊 孝一郎	16	6/4,11,18,25	4
3	現代アメリカ事情(かしわざき市民大学)	星野 三喜夫	14	6/10,17,24,7/1	4
4	かしわざきを知る(かしわざき市民大学)	片岡 直樹(他)	41	9/27	1
5	美しい日本語の世界 ～残したい言葉・季語の世界～(市民大学)	北原 保雄	70	10/10	1
6	ロシア～ソチ五輪を目前に控えて～	嵐田 浩吉	13	10/22,29,11/5,12	4
7	白鳳時代の仏像(上越ケーブルビジョン)公開	片岡 直樹	80	6/7	2
8	天平時代の仏像(上越ケーブルビジョン)公開	片岡 直樹	80	6/21	2
9	光触媒による実験(刈羽村ケーブルテレビ)	アブドゲニィ	—	10/26	1
10	肉体改造入門2(刈羽村ケーブルテレビ)	青柳 勸	—		1
		受講者計	364		

ウ. 内田エネルギー財団・科学技術啓蒙活動助成公開講座(刈羽村:生涯学習センターラピカ)

No.	講座名	講師名	受講者数	期間	回数
1	クリーンエネルギーの扉を開く	アブドゲニィ	12	10/12,19,26	3

エ. その他

「新潟市民大学」(大学連携講座)に金光林教授、「新潟県生涯学習連携講座」に片岡直樹教授が出講した。

③友の会会員数の拡大

柏崎・刈羽以外の地域に対し、聴講講座でのチラシ配布・ダイレクトメール等により「友の会」(新潟産業大学生涯学習センター支援組織)会員の拡大を図った。会員数は平成26年3月末時点で35人。

平成26年3月14日に大学キャンパスにて毎年恒例の「友の会」懇親会を開催し、図書館ツアー等施設案内を行った。また、社会人学生に対し「友の会」加入勧誘を行った。

(2)青少年国際経済人育成事業(新潟県ロータリークラブ寄付金原資)

①「地球くらぶ」(国際教養体験講座)イベントを実施

地元の児童クラブを訪問して東アジアの言語や文化を紹介するイベント「地球くらぶ」を3回開催した。

ア. 鯖石児童クラブ

日時:平成25年8月8日(木)10:00~12:00

場所:鯖石児童クラブ 参加人数:21人(児童)

内容:本学留学生が児童に韓国・モンゴル・中国・チベットの文化を紹介。世界のコインを展示。

イ. 半田第二児童クラブ

日時:平成25年8月8日(水)13:00~15:00

場所:半田第2児童クラブ 参加人数:11人(児童)

内容:本学留学生が児童に韓国・モンゴル・中国・チベットの文化を紹介。世界のコインを展示。

ウ. 地球くらぶ 紅葉祭展示

日時:平成25年11月2日(土)3日(日)

場所:新潟産業大学206教室

内容:地球くらぶとして所有している文物・パネル等を展示。本学チベット人留学生が湯茶やお菓子、ゲーム等で来場者をもてなし、交流した。

②「ふるさと自慢作文コンテスト」作文集完成

「ふるさと自慢作文」の応募作品(平成21年度1,214点、平成22年度682点)の中から優秀作品を選定し、韓国語・中国語・モンゴル語に翻訳した作文集を発行した。

③地域通貨事業

地産池消活動の推進を目的とした米本位制の地域通貨(風輪通貨)を地元商店街等に流通させる活動を実施した。具体的には、阿部雅明教授とそのゼミナールが、大学近くの圃場を借用し米作りを行う過程で、ボランティアを募り、ボランティア参加者に地域通貨を発行した。また、米作りのほか大学が共催・後援する行事に参加したボランティア学生にも地域通貨を発行した。同時に、地域通貨を流通させる商店を開拓した。

④海外・国内研修

青少年に国際人としての資質を涵養し、コミュニケーション能力を育成する目的で、国際文化研修(台湾9月11日~17日)及び日本文化研修(東京9月11日~14日及び京都9月3日~6日)を実施し、引率教員の旅費交通



	<p>費補助や、国際文化研修参加学生 5 人（各 5,000 円）への助成を行った。</p> <p>⑤ラジオ番組年間の実践 柏崎のコミュニティ・ラジオ「FM ピッカラ」のラジオ番組「ホワイト・ボード」（月 3～5 回・金曜日 19：00～20：00）の学生による企画製作出演を通して、地域の広報活動を行った。</p> <p>⑥プレゼン及び P R 能力育成（大学生、高校生のプレゼンテーション及び P R 能力向上のための講習会及び演習プログラム） デザインソフトを購入し、経済経営学科基礎ゼミ B クラス（12 人）で学内試行。2014 年 3 月 22 日にはミニ・オープンキャンパスで実施。体験者 2 人。</p>
<p>(3)『柏崎市・新潟産業大学・新潟工科大学連携協定』に基づく取り組み</p>	<p>①平成 25 年度 大学・地域連携推進業務委託 地域通貨「風輪通貨」による地産地消の推進(阿部教授) 「空き店舗活用事業」(新潟産業大学・新潟工科大学 共同受託)</p> <p>②ぎおん柏崎まつり参加 7 月 25 日、柏崎まつり二日目の「樽仁和賀パレード」に、「新潟産業大学・新潟工科大学合同御輿」を出し、両大学学生と教職員計 70 人が参加した。</p> <p>③柏崎市の各種委員会等への委員派遣</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 柏崎市行政改革推進委員会委員（橋本次郎教授）</li> <li>2) 柏崎市公共事業再評価委員会委員（橋本次郎教授）</li> <li>3) 柏崎市指定管理者選定委員会委員（高橋成夫教授）</li> <li>4) 「明日のエネルギーを考えるシンポジウム」実行委員（阿部雅明教授）</li> <li>5) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員（星野三喜夫教授）</li> <li>6) 柏崎市第四次総合計画後期基本計画策定市民会議（豊かな心と生きる力）分科会委員（広川俊男教授）</li> <li>7) 柏崎市入札監視委員会委員（広川俊男教授）</li> <li>8) 柏崎市特別職報酬等審議会委員（広川俊男教授）</li> <li>9) 柏崎市公益通報等審査委員会委員（梅澤 精教授）</li> <li>10) 柏崎市情報公開・個人情報保護審査会委員（梅澤 精教授）</li> <li>11) 柏崎市男女共同参画社会審議会委員（梅比良眞史教授）</li> <li>12) 柏崎市中越沖地震復興祈念事業実行委員会委員（詹 秀娟教授）</li> <li>13) 柏崎市文化財保護審議会委員（片岡直樹教授）</li> <li>14) 「かしわざき市民大学」企画運営委員（片岡直樹教授）</li> <li>15) 柏崎市廃棄物減量等推進審議会委員（アハメド シャハリアル 准教授）</li> <li>16) 柏崎市バイオマス利活用推進協議会委員（アブドゲニィ アブドレヒミ 准教授）</li> <li>17) 柏崎市奨学金貸付選考委員会委員（小林健彦准教授）</li> <li>18) 柏崎市文化財保護審議会委員（小林健彦准教授）</li> <li>19) かしわざき健康みらいプロジェクト推進会委員（平野実良講師）</li> <li>20) 柏崎市介護保険運営協議会委員(柏崎市地域包括支援センター 運営協議会委員兼務)（平野実良講師）</li> <li>21) 柏崎市介護サービス事業者選定委員会委員（平野実良講師）</li> <li>22) 柏崎市地域医療連携会議委員（平野実良講師）</li> <li>23) 柏崎市環境審議会委員（川本真哉講師）</li> <li>24) 柏崎市都市計画審議会委員（渡邊孝一郎助教）</li> <li>25) 柏崎市元気なまちづくり事業補助金審査員（渡邊孝一郎助教）</li> </ol>

	<p>26) 柏崎市都市スポーツ推進審議会委員（青柳 勸助手）</p> <p>27) 柏崎市シティセールス推進計画策定会議委員（青柳 勸助手）</p> <p>28) 柏崎リーダー塾運営協議会委員（金子和裕事務局長）</p> <p>29) 「かしわざき市民大学」企画運営委員（押見操子教務課係長）</p>
(4) 水球のまち柏崎への協力体制	<p>①ブルボンウォーターポロクラブ事務局への大学施設の賃貸。</p> <p>②青柳経済学部助手が同クラブの選手兼任監督。</p>
(5) 普通地方公共団体への施設貸与	<p>平成 24 年 4 月 1 日、新潟県柏崎市との間において、建物賃貸借契約書を締結(契約期間は平成 34 年 3 月 31 日まで)した。B 号館校舎（鉄骨造陸屋根 2 階建：床面積 1,448.39 m<sup>2</sup>）は、柏崎市立教育センターの庁舎として使用し、柏崎市職員が執務を行っている。</p>
(6) その他	<p>第 6 回「大学は美味しい!!」フェアに参加</p> <p>東京(5 月 27 日～6 月 2 日)、長岡（10 月 11 日～13 日）で開催された「大学は美味しい!!」フェアに、阿部ゼミナール、梅澤ゼミナール、水球部などが参加した。本学の商品はずぎのとおり。</p> <p>阿部ゼミナール：地域通貨事業で生産した米の一部を活用し、「菓子道楽新野屋」と商品開発した煎餅「たな米」を販売。</p> <p>梅澤ゼミナール：柏崎野菜「つららナス」を活用し、菓仙庵光月堂と商品開発した「つららナスのグラッセ」を販売。</p> <p>水球部：学生サークル「地域振興研究会」と原酒造が共同開発した生貯蔵酒「青涛」を販売。</p>

## 7. 国際交流

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)地域における国際交流	<p>①小中学校等への外国人留学生派遣事業 小中学校における総合学習や地域各種団体の行事などへ留学生を派遣し、母国文化紹介や相互交流を行った。</p> <p>②柏崎地域国際化協会関係事業 協会主催の「語学教室(講師)」などに留学生を派遣し柏崎市民との交流や外国籍の市民へのサポート活動を行った。</p> <p>③学園祭で「私の主張 イン柏崎」を実施 留学生 14 名が柏崎市民に対し意見発表を行い、異文化理解への関心を高めた。</p>
(2)海外学術交流協定校との交流	<p>①短期留学生派遣 黒龍江大学(中国)へ1人が1年間留学した。</p> <p>②短期留学生受入れ 黒龍江大学(中国)1人、哈爾濱師範大学(中国)1人、集美大学(中国)3人、明道大学(台湾)7人、計12人の交換留学生を受け入れた。</p> <p>③短期セミナー生受入れ 春学期に12名(中国10、ロシア2)、秋学期に8名(中国4・台湾3・モンゴル1)の短期セミナー生を受け入れた。</p>

## 8. 附属図書館

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)学習・教育・研究支援	<p>①利用満足度の向上 学生及び教職員の図書館利用の満足度向上のため、陳列・展示、レフェレンス(資料相談)、閲覧室の環境をより充実させた。</p> <p>②選書ツアーの実施 本への興味や関心を高めることを目的に、学生による書店での選書ツアー(実地選書)を開催した。ツアーの後、参加学生と郷土の名所・名跡を巡り、地域について学ぶ学習に役立てた。</p>
(2)資料の整理・整備・	<p>①配架図書の整理 配架図書の新陳代謝を図る観点から、図書の整理を行った。教職教育や郷土資料、資格取得、就職活動など、目的別に利用者を誘導できるよう、各コーナーの特色をさらに高め、図書を充実させた。</p> <p>②図書の除籍 複数冊ある蔵書を中心に図書の除籍作業を行い、図書の整理、書棚のスペース確保・狭隘緩和を図った。</p>
(3)資料の管理・保存	<p>①蔵書の確認・点検 遅滞者管理の徹底と蔵書点検を行い、所蔵の確認と不明本の抽出を行った。平成 25 年度末の不明本冊数を 13 冊まで減少させた。</p>
(4)除却書籍の販売	<p>①古本市の実施 秋の学園祭に図書館として参加し、除籍・除却処分した図書や雑誌のリサイクル市を開いた。安価で専門書を提供する古本市は学生、教職員、一般来場者から好評を得た。</p>

(5)開館サービス状況	<p>○開館時間：月～金 9:00～19:00          長期休業期間中 9:00～17:00</p> <p>○入館者延べ人数：20,992 人</p> <p>○資料提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数：2,434 冊</li> <li>・貸出延べ人数：1,151 人（うち、学生 627 人）</li> <li>・他大学図書館との相互協力による資料依頼・資料提供件数</li> </ul> <table border="1" data-bbox="603 465 1155 577"> <thead> <tr> <th></th> <th>文献複写</th> <th>相互貸借</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼</td> <td>26</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>受付</td> <td>43</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>		文献複写	相互貸借	依頼	26	33	受付	43	34
		文献複写	相互貸借							
依頼	26	33								
受付	43	34								

## 9. FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）

事業項目	平成 25 年度実施内容
(1)FD の推進	<p>①授業改善アンケートの実施            春学期（H25.6.24～H25.6.28）と秋学期（H25.11.18～H25.11.22）の2回実施した。            高評価の授業については「受講生が選ぶベスト授業賞」として表彰（専任教員4人）した。一方、アンケート評価の低い授業に対しては授業改善計画書の作成を義務付け、これを学内掲示した。            その他、本年度新たな取り組みとして、設問グループごとのクロス集計を行い、アンケート結果を詳細に分析した。            結果の公表については、「科目別各回答率分布表」「全体結果グラフ」「クロス集計結果」を本学ホームページに掲載し一般公開した。また、「授業改善計画書」「アンケート結果に対する教員から学生へのコメント」を学内公開した。「自由記述欄」については、各々担当教員に伝えた。</p> <p>②教員による相互授業見学（H25.10.14～H25.10.25）            FD委員会が見学授業を指定し、全教員に指定授業の見学と見学後の「見学レポート」提出を義務付けた。            また、「見学レポート」を基に全教員による「授業見学意見交換会」（H25.10.30、15:00～16:45）を開催し、意見交換を行い個々の授業改善に繋げた。</p> <p>③FD講演会の開催            第1回            開催日：平成25年7月17日 15:00～            講師：学長 北原保雄            テーマ：「FDについて」            参加数：26人            第2回            開催日：平成26年2月19日 16:30～            講師：医師 岡田奈緒子（※本学非常勤講師）            テーマ：「本学におけるメンタルヘルスの現状と課題」            参加数：27人</p> <p>④新任教員研修会の実施            開催日：平成25年4月5日 10:30～            講師：梅澤FD委員長、広川副学長、星野学部長            新任教員：宇都宮仁、権田恭子</p>

(2) SDの推進	学校法人柏専学院教職員の研修に関する規程」に基づき、下表のとおり派遣研修を実施した。			
	<学外SD研修会>			
	実施日	時間	研修テーマ等	場 所
	参加数			
6月13日(水) 7月19日(金) 8月29日(木) 9月13日(金) 10月4日(金) 11月12日(火)		ベティン・メソッドリーダーシ ップ研修 テーマ:「未来を創るリーダーシ ップ」	長 岡 商 工 会 議 所	1人
9月11日 (水)	9:30~17:30	新潟大学スキルアップセミナー ～ワークマネジメント研修 ～	と き め い と	1人
2月19日 (水)	16:30~18:00	FSDS 講演会「本学におけるメン タルヘルスの現状と課題」 講師：医師 岡田奈緒子(本学非 常勤講師)	本 学	職員 17人

## 10. 施設開放

事業項目	平成25年度実施内容
(1) 大学施設開放	<p>地域に根ざす開かれた大学として、本学施設の利用について、広く地域に呼びかけているが、平成25年度は、約5,000人の学外者が本学の施設を利用した。以下、施設別利用日数の集計結果。</p> <p><b>【開放施設】</b></p> <p>①体育館 利用日数：延べ121日          ②グラウンド 利用日数：延べ17日          ③テニスコート 利用日数：延べ120日          ④講堂1日          ⑤教室他16日          ⑥駐車場3日</p>

## Ⅱ. 新潟産業大学 大学院経済学研究科

### 1. 教育の成果

事業区分・項目	平成 25 年度報告
(1)学位授与	経済学研究科経済分析・ビジネス専攻修士（経済学）課程を3名が修了した。

### 2. 教育及び研究指導の改善

事業区分・項目	平成 25 年度報告
(1)教育課程の整備	研究の高度化及び地域振興のための経済研究 大学院の教育目標にある地域社会の指導的産業人や自治体職員などの養成に向けた実践的科目として、アグリビジネスや商店街活性化に関する科目の調査検討を行った。
(2)ファカルティ・ディベロップメントの推進	①FD活動の一環としての研究報告会開催 2回の研究報告会を実施した。 ②大学院授業改善アンケート内容見直し 自由記述欄を充実させ、院生の意見をより反映させるようにした。

### 3. 学習・研究の支援

事業項目	平成 25 年度報告
(1)基礎学力養成支援	①院生の経済学・経営学検定試験受験のために、受験料の支援を行った。 ②院生の文献検索を助けるため、文献複写・相互貸借の費用の支援を行った。
(2)院生指導室の整備	院生の個別指導を充実させるために統計処理ソフトを購入した。

### 4. 国際交流

事業項目	平成 25 年度報告
(1)国際交流の明確化	海外の大学との学術協定締結のための条件整備を行うとともに、学術情報の交換を内モンゴル農業大学に申し入れた。

## Ⅲ. 新潟産業大学附属高等学校

### 1. 平成25年度の「教育等の事業」の概要

前年度までの部活動での活躍や大学進学実績をさらに高めるために、今年度も「部活で燃えろ！進路で輝け！」をスローガンに掲げ、少子化に伴う適齢人口の減少や、教育の多様化、個性化に対応し、地域に信頼され、期待される新潟産業大学附属高等学校を目指すために、募集活動や広報活動で当校の特色・魅力や教育成果などを、地域に深く理解していただけるよう努力してきた。

### 2. 平成25年度実績

#### (1) 部活動実績（国際大会・全国大会レベルに挑戦）

①県高等学校総合体育大会に147名（昨年度140名）が出場し、25名（昨年度19名）が優勝を果たした。

卓球部は、学校対抗戦男女、シングルス男女、ダブルス男女で優勝を果たした。新潟県史上初の快挙を達成した。

陸上競技部は、男子100mハードルと棒高跳で優勝した。

②北信越高等学校体育大会に48名（昨年度44名）が出場した。

卓球部は、学校対抗戦で女子が優勝、男子が準優勝、女子シングルス優勝、準優勝、女子ダブルス準優勝、男子ダブルス3位と実力を発揮した。

陸上競技部は、男子棒高跳で優勝。男子走高跳3位。男子110mハードル5位でインターハイ出場権を獲得した。

③北信越高等学校選抜卓球選手権大会では、女子ダブルスで優勝を果たした。

④全日本卓球選手権大会では、4名出場を果たした。

⑤全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に26名（昨年度24名）が出場した。

卓球部は、男女学校対抗戦、男女シングルス、男女ダブルスの全種目に出場した。

水泳部は、2名出場した。

陸上競技部は、男子棒高跳、男子走高跳、男子110mハードルに出場した。

⑥国民体育大会 スポーツ祭東京2013に県代表選手として、卓球少年男女に4名が出場した。

陸上競技部は、男子棒高跳、男子110mハードルに2名が出場した。

ゴルフ部は、男子1名が出場した。

⑦ゴルフ部は、全国高等学校ゴルフ選手権 男子個人6位に入賞した。

⑧ゴルフ部は、アジアジュニアチームチャンピオンシップ（韓国）に日本代表として出場し、団体準優勝を果たした。

⑨ゴルフ部は、文部科学大臣杯争奪全日本大学・高等学校ゴルフ対抗戦に出場した。

⑩ライフセービングは、全日本ライフセービング大会サーフレース第3位入賞、全日本ユースライフセービング選手権大会ボードレース優勝した。

⑪ライフセービングは、全日本ライフセービング選手権大会でオーシャンウーマンリレーユース 第3位入賞、男女混合サーフスキーレース ユース 第3位入賞を果たした。

⑫全日本高等学校選抜卓球大会に男女学校対抗戦に出場した。

#### (2) 進学実績（大学・短期大学進学率53.4%、専修学校28.8%）



※昨年度大学・短期大学進学率 48.4%、専修学校 25.4%

- ① 4年制大学進学率は48.3%で、常盤高校に並んだ。
- ② 4年連続で国公立大学合格者を輩出した。
- ③ 難関私立大学（立命館大）の合格者を輩出した。
- ④ 夏期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）・冬期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）・サマーゼミ（2泊3日の学習合宿、国語5時間、数学5時間、英語5時間、個別指導等6時間）・春期特進講座（5日間、国語5時間、数学5時間、英語5時間）は前年度と同様に計画・実施した。  
サマーゼミ（2泊3日の学習合宿）は、昨年同様1、2年生を対象に妙高高原にて実施した。
- ⑤ 大学進学プログラム（7、8限、毎週土曜）  
月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の8限及び水曜日の7、8限と土曜日の1、2、3限を利用し、大学進学に必要な受験指導をしてきた。
- ⑥ 高大連携教育（ブリッジプログラム）の実施  
1年のフレッシュマンセミナー、大学説明会（産大体験授業）、2年生の進路講演会、3年生の大学進学説明会等、附属高校独自のキャリア教育も大学側の多大な協力により予定どおり実施することができた。

### 3. 教育目標実現のために実施した事項並びにまとめ

#### (1) 教育目標と教育方針

##### 【教育目標】

1. 人生観の指導と自信のある生活態度の育成
2. 学習意欲と能力の向上
3. 自律自治と社会連帯の精神涵養

##### 【教育方針】

生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、部活で燃えろ！進路で輝け！を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。

#### (2) 生徒への支援

##### 【教務部】

《今年度の重点事項》

- ① 平成25年度教育課程の実施と検証
- ② 授業規律向上の取り組みの徹底
- ③ 学習遅進者に対する指導の取り組み
- ④ 進路指導部との連携にした学習指導
- ⑤ 授業時数確保と行事等準備期間の工夫

《具体的な取り組み》

- ① 学年ごとに異なるカリキュラムで実施するため、特に新教育課程については、研修会等で説明を受けた内容を教科ごとに周知徹底した。
- ② 期限付きの取り組み（出席率調査、ベル着席率調査、学習活動完了率調査）を1～2週間で実施した。

- ③各定期考査前に考査週間を設定し、考査準備を徹底させる。考査後に再考査の期間を設け、赤点対象者を絞り込んだ。夏季休業中、冬季休業中、学年末にそれぞれ補習授業を行い、赤点の学期毎の解消を徹底した。
- ④コース毎に授業時数を集計し、定期的に点検し、当初の計画通りの授業時数を確保した。長期休業毎に「特進講座」を1週間実施し、進学希望者の学力増進を図った。
- ⑤大学進学プログラム、ブロードバンド予備校や放課後の自主学習を進路指導部と協力し、生徒の学習状況を点検し、適切な助言をしながら、希望進路の達成を支援した。

#### 《結果》

- ①新教育課程についての研修会に各教科の複数人が参加しており、情報を共有し、周知したため、特に問題もなく教育課程を実践できた。
- ②「授業規律向上の取り組み」や「期限つきの取り組み」が、クラスや学年による独自の取り組みと相まり、学習意欲や授業態度は改善された。
- ③自作教材や視聴覚教材の活用、繰り返し学習や演習量の増加により、学習遅進が改善してきている。
- ④進路指導部と連携した進路指導および学習指導をあらゆる機会を捉えて実施したため、概ね進路希望を達成できた。
- ⑤教科・科目ごとの時数に差異が見られたが、総授業時数は確保できた。また、体育祭・統一祭の準備期間も必要とされる時間を概ね確保できた。

#### 【生徒指導部】

##### 《今年度の重点事項》

- ①規律ある生活態度の育成、社会のルールやマナーの理解・実践
- ②生徒が授業や部活動、行事に主体的に参加するための援助
- ③制服の正しい着用

##### 《具体的な取り組み》

- ①基本的生活習慣の確立（欠席・遅刻・早退の防止）と中途退学者の防止  
保護者からの連絡、届出を徹底させ、連絡がない場合には保護者に確認をした。不登校の生徒については、学校全体で共有した情報を持って丁寧に指導し、中途退学者を減らす努力をした。
- ②校内規律の確立（制服・頭髪・化粧・言葉遣い）と社会のルールの遵守  
制服・頭髪については定期的に各学年で検査を実施し、改善させた。化粧については、直ちに改善させた。
- ③学業に不必要な物品等を持ち込まない指導  
ゲーム機、音楽プレイヤー、カード類、雑誌類、化粧品、装飾品等の持ち込みを厳しく禁止した。
- ④立哨指導、巡視指導  
生徒玄関での生徒指導部を中心とした立哨指導並びに教師による当番制での安田駅での乗降車、マナー指導を実施した。
- ⑤長期休業の事前指導  
夏季・冬季・春季休業中の生活について生徒に文書を配布し、学年集会、各HRで事前指導を実施した。また、保護者にも文書を配布し、期末PTA等で協力をお願いした。
- ⑥生徒会主催の県総体激励会、インターハイ・北信越・野球部激励会の実施

### ⑦月間毎の「正しい制服の着用強化月間」のキャンペーンと指導

腰パン禁止、シャツ出し禁止、ネクタイの正しい着用等月毎に取り組みを実施し、改善されない場合学年会面接、生徒指導部長面接、副校長面接と段階的に指導をした。

#### 《結果》

- ①無断欠席、無断早退がなく、生徒の所在が確認できた。不登校生徒は家庭訪問で状況把握ができた。
- ②頭髪の改善については、保護者に連絡し協力を得られた。高校生らしい清楚な容姿になってきた。
- ③授業姿勢、雰囲気向上し生徒、教師共に相乗効果があった。
- ④挨拶指導、服装指導に効果があった。安田駅の乗降車、マナー指導は社会のルール遵守に効果があった。
- ⑤長期休業中は事故・事件はなかった。
- ⑥北信越大会、インターハイ、国体に多くの生徒が出場し、入賞を果たした。
- ⑦正しい制服の着用については、段階的な指導を実施した。生徒はルール遵守の重要性が理解できた。

### 【進路指導部】

#### 《今年度の重点事項》

- ・教科、学年と連携しながら組織的に特別進学指導を実施し、確かな受験学力をつける。
  - ・大学進学率、センター試験受験者数を高め、国公立大と難関私立大の合格者を増やす。
  - ・進路指導が段階的、系統的に行われるように次の年次指導目標を置く。
- 1年：安定した高校生活を過ごし、その中で理想とする生き方や将来の方向、職業を考える。  
学習習慣を確立し、国語・数学・英語の学力充実と得意科目の発展的学習を進める。
- 2年：高校生活の一層の充実を図りながら、自分の関心・適性・能力を客観的に把握する。  
社会的自己実現の為の進路目標を定め、国・数・英・受験科目の学力向上に努力する。
- 3年：希望する進路の目標を絞り、必要な情報を整理し、全力で受験準備に邁進する。  
目標、情報、準備状況を総合的に判断し、果敢に受験しながら着実に進路を決定する。

#### 《具体的な取り組み》

- ①進路の手引きの作成や、進路希望調査を実施した。
- ②進路指導室については、生徒が利用しやすいスペース作りや資料の蓄積と整理をした。  
また、センター試験、就職試験への激励会を実施した。
- ③就職希望者の全員内定を目指し、「就職試験対策ゼミ」「ハローワーク相談室」「就職ガイダンスⅠ」「就職ガイダンスⅡ」「4者面談」等を実施した。
- ④カレッジコースの卒業時までの継続した進路指導として、センター試験説明会を学期毎に実施した。
- ⑤大学進学者の増加策として、学年毎の進学指導を強化し、国公立大学への推薦選抜入試の指導やラーナーズクラブ（勉強部）を創設して大学進学者数の底上げを図った。
- ⑥教務部とタイアップして、大学進学プログラム・サマーゼミ等を充実させ、校内予備校の導入に向けた取り組みを図った。
- ⑦履歴書に書ける特技や資格を身に付けさせる目的から、各種資格の取得を奨励した。

- ⑧新たな求人先の開拓を目指し、積極的に企業訪問を行った。
- ⑨社会人としての心得についての指導を目的に、社会人準備セミナーを実施した。
- ⑩広報とリンクし、「部活で燃えろ進路で輝け」及び「部活で燃えろ進路で輝け地域版」を地域（上越、長岡を含む）に配布した。
- ⑪新たな大学の指定校枠の開拓をした。

《結果》

- ①進路の手びきを作成し、全校生徒・保護者に配布した。進路意識調査は学期毎に実施したが、全体的には教師側の指導もあり、進学志向が高まってきている。
- ②進路指導室については、進学や就職の情報収集・面接練習或いはセンター試験受験の勉強スペースとして利用する生徒が多かった。センター試験激励会については、試験前日は校内で、試験当日は会場にて、校長をはじめ保護者も参加して、他校よりも盛大に受験生の激励を行うことができた。就職試験激励会についても、校長の激励と就職内定祈願を受け、試験本番に臨むことができた。
- ③就職試験対策ゼミを開催し、「クレペリン検査」「作文」「一般常識」等就職試験に向けた指導を行い、事前学習・事前準備を促すことができた。ハローワーク相談室では、校内で職安職員より就職応募に向けた指導を受けた。また、就職ガイダンスⅠにおいては、就職試験までの流れや就職試験の厳しさ、或いは進学への方向転換等を含めて説明をし、気を引き締めることができた。更に厚生労働省主催による就職ガイダンスⅡでは、職業指導員から面接の受け方や就職への心構え等の指導を受け、実践力を身につけることができた。未内定者については、保護者、生徒、担任、進路指導部の4者で将来についての方向を探りながら、面談等の指導を重ね希望者全員が内定することができた。
- ④2、3年生カレッジコースを対象としてセンター試験説明会を実施した。内容としては「センター試験受験の意義」や「出願書類の書き方」等を指導した。
- ⑤進学意識を高める為と「高・大連携教育」の実践的な取り組みの一環として、1年生を対象として「フレッシュマンセミナー」や「産大・工科大見学会」を実施した。2年生では「大学見学会」や「進路ガイダンス」3年生では「進学説明会」等を実施した。また、産業大学の教室を借用して、センター試験対策ゼミを実施した。3年生22名が参加し、自学自習の習慣づけと学力向上に努めることができた。国公立大学の推薦選抜入試にも複数の生徒をチャレンジさせた。更にラーナーズクラブ（勉強部）の活動を定着させ将来的な大学進学者数の底上げを図っている。
- ⑥サマーゼミ（学習合宿）を妙高高原で実施した。カレッジコース1年21名、2年21名が参加し、学習習慣と効率的な学習法を身に付けることができた。また、校内ブロードバンド予備校を実施した。
- ⑦就職希望者を対象として手話講座を開催し、柏崎市職員の方から指導を受けた。基本的な部分ではあるが、受講者には特技の1つとして体得させることができた。また、資格取得を奨励・指導した。柏崎労働基準協会によるアーク溶接講習、クレーン講習で6名が資格を取得できた。
- ⑧企業訪問を実施した。職場への定着指導や今後の求人開拓に結び付く感触も得ることができた。
- ⑨就職希望者を対象として、社会人準備セミナーを実施した。「社会でのマナー」について、にいがたキャリアサポーター講師より講演を受け、社会人としての緊張感をもたせることができた。
- ⑩進路指導ニュース「部活で燃えろ進路で輝け」の発行により、生徒に対しては進路対

する意識付けと自信を持たせ、地域に対しては本校をPRする活動の一助にもなり「生徒募集」に役立てることができた。

## 4. 生徒募集

### (1) 中学校訪問の強化（長岡・上越地域の生徒の増加のために）

第1回、2回での中学校訪問は、午後から授業のない考查期間中に実施、第3回は訪問者の授業時間割を考慮し、訪問日を分散させた。第4回は二次入試の出願日程に合わせて設定した。

#### 第1回中学校訪問（広報活動、情報収集）

7月2日（月）、3日（火） 77校（昨年度71校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、十日町、上越、三条

#### 第2回中学校訪問（生徒募集並びに広報活動、学校見学会案内）

10月1日（火）、9日（水） 77校（昨年度55校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、三条、妙高、糸魚川

#### 第3回中学校訪問（推薦・一次入試に向けて、中学校の出願状況、情報収集及び募集活動）12月2日（月）～6日（金） 77校（昨年度71校）

柏崎、刈羽、長岡、見附、三条、燕、出雲崎、魚沼、南魚沼、十日町、小千谷、上越、糸魚川

#### 第4回中学校訪問（二次入試に向けて、情報収集及び募集活動、推薦・第1次入試、自己推薦入試の報告）

2月24日（月）、25日（火）27日（木） 57校（昨年度58校）

柏崎、刈羽、出雲崎、長岡、見附、小千谷、上越

### (2) 高校説明会（中学校からの依頼参加）

#### <柏崎・刈羽地区（13校）13回>

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| ①6月14日（金）刈羽村立刈羽中学校   | ⑧7月9日（火）柏崎市立南中学校   |
| ②6月18日（火）柏崎市立第五中学校   | ⑨7月10日（水）柏崎市立東中学校  |
| ③6月19日（水）柏崎市立第一中学校   | ⑩7月12日（金）柏崎市立高柳中学校 |
| ④6月20日（木）出雲崎町立出雲崎中学校 | ⑪7月16日（火）柏崎市立松浜中学校 |
| ⑤6月20日（木）柏崎市立第二中学校   | ⑫7月22日（月）柏崎市立第三中学校 |
| ⑥6月21日（金）柏崎市立瑞穂中学校   | ⑬9月11日（水）柏崎市立北条中学校 |
| ⑦6月24日（月）柏崎市立鏡が沖中学校  |                    |

#### <長岡地区（4校）4回>

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ①6月20日（木）長岡市立東北中学校 | ③7月11日（木）長岡市立寺泊中学校 |
| ②6月27日（木）長岡市立越路中学校 | ④9月13日（金）長岡市立大島中学校 |

#### <十日町地区（1校）1回>

- ①7月9日（火）十日町市立十日町南中学校

#### <上越地区（7校）7回>

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ①6月14日（金）妙高市立新井中学校 | ⑤8月2日（金）上越市立直江津中学校 |
|--------------------|--------------------|

- ②6月21日(金) 上越市立大潟町中学校      ⑥ 9月18日(水) 上越市立雄志中学校  
 ③6月25日(火) 上越市立板倉中学校      ⑦ 9月27日(金) 上越市立柿崎中学校      ④  
 6月26日(水) 上越市立城東中学校  
 <糸魚川地区(2校) 3回>  
 ①6月21日(金) 糸魚川市立糸魚川中学校      ③ 7月9日(金) 糸魚川市立糸魚川中学校  
 ②7月5日(金) 糸魚川市立糸魚川東中学校

(3) 中学校教師対象入試説明会

9月20日(金) 20校 20名 (平成24年度18校 18名参加)

柏崎市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、鏡が沖中学校、瑞穂中学校、松浜中学校、南中学校、東中学校、第五中学校、北条中学校、高柳中学校、新潟県立柏崎特別支援学校、刈羽村立刈羽中学校、長岡市立南中学校、長岡市立東北中学校、青葉台中学校、旭岡中学校、小国中学校、上越市立板倉中学校、見附市立見附中学校

(4) 学校見学会 (オープンスクール)

第1回学校見学会 7月6日(土) (部活動体験、産附弁当配付)

60名 (昨年度63名)

第2回学校見学会 10月18日(金) (授業・部活動体験、産附弁当配付)

173名 (昨年度207名)

特設見学会 10月28日(月) (授業・部活動体験)

39名 (昨年度0名)

西山中学校見学会 11月7日(木) (授業・部活動体験)

4名 (昨年度0名)

個別見学会 随時 (授業・部活動体験)

4名 (昨年度0名)

(参考) 平成15年度 50名、平成16年度 86名、平成17年度 56名、平成18年度 76名、平成19年度 90名、平成20年度 168名、平成21年度 170名、平成22年度 145名、平成23年度 242名、平成24年度 269名、平成25年度 280名

※ 学校見学会には、予想を超える中学生の参加があり、授業や部活動の見学・体験から、志願者の増加につながった。

(5) 募集結果 (平成26年度)

学科	募集学級	募集定員	区分	志願	受験	合格	入学 手続	入学 許可
普通	4	160	専願推薦	51	51	51	51	51
			スポーツ					
			自己推薦	4	4	2	2	2
			一般	91	91	81	81	81
			併願推薦	344	344	344	25	25
			計	490	490	478	159	159

## 5. 新規取組事項

- (1) 卓球部、陸上競技部、ゴルフ部が県の事業である「魅力ある私立高校づくり支援事業」の指定を受け、3年間事業に取り組んでおり、25年度は、24年度同様、卓球部が県外遠征、陸上競技部が国内トップレベル指導者による講演会、ゴルフ部がプロによるレッスン等の取組みをし、結果を出した。
- (2) 教職員用のPCを44台入れ替えた。
- (3) 特別教室棟と講堂棟の耐震工事をする計画を立てた。
- (4) 平成25年度卒業記念事業として、学校案内看板を設置した。
- (5) 修学旅行先においては、異文化に触れることを目的として台湾に渡航した。
- (6) 当校の教育活動内容を広く浸透させるために広告等掲載を強化し、柏崎地区は「柏崎情報パーク」、上中越地区は「新潟日報上中越版等」、さらには「JR列車の時刻表」に本校広告を掲載した。さらに、高速バス内のアナウンスの中に本校の宣伝も流した。

# 3部 財務の概要

## 平成25年度決算の概要について

新潟産業大学並びに新潟産業大学附属高等学校を経営しております学校法人柏専学院の平成24年度決算は、下記のとおりとなりました。

なお、本法人は、学校法人会計基準(昭和46年文部省令第18号)に準拠した適正な会計処理を行っております。

### 資金収支計算書

平成25年4月 1日から  
平成26年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

収入の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	入学金、授業料等の納付金	521,042,000	519,695,807	1,346,193
手数料収入	入学検定料、証明手数料など	7,806,000	8,159,560	△ 353,560
寄付金収入	本法人に対する寄付金、 但し現物寄付は除く	1,273,000	1,685,140	△ 412,140
補助金収入	国、地方公共団体などから 交付される補助金	309,858,000	310,850,572	△ 992,572
国庫補助金収入	国などからの補助金	( 104,447,000 )	( 104,452,712 )	( △ 5,712 )
地方公共団体補助金収入	県などからの補助金	( 205,411,000 )	( 206,397,860 )	( △ 986,860 )
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,329,000	14,455,013	△ 126,013
資産売却収入	有価証券等の売却	0	7,054,126	△ 7,054,126
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 委託事業収入等	32,644,000	33,875,000	△ 1,231,000
雑収入	上記以外の収入	28,315,000	33,997,431	△ 5,682,431
前受金収入	平成25年度入学生にかかると 納付金など	55,806,000	58,456,668	△ 2,650,668
その他の収入	本法人に帰属しない収入	108,349,759	83,697,978	24,651,781
資金収入調整勘定	当年度の収入と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 66,243,980	△ 84,987,841	18,743,861
前年度繰越支払資金	平成23年度から繰り越された 現預金	864,958,817	864,958,817	
収入の部合計		1,878,137,596	1,851,898,271	26,239,325
支出の部				
科目	科目の主な内容	予算	決算	差異
人件費支出	教職員、役員等の給与・手当	690,761,000	692,951,181	△ 2,190,181
教育研究経費支出	教育研究のために要した経費	253,284,000	251,130,870	2,153,130
管理経費支出	教育研究経費以外の経費	121,082,000	118,191,707	2,890,293
借入金等利息支出	借入金の返済利息	0	0	0
借入金等返済支出	借入金の返済金	0	0	0
施設関係支出	建物、構築物	738,000	2,522,500	△ 1,784,500
設備関係支出	備品、図書	14,932,000	12,507,373	2,424,627
資産運用支出	有価証券等の購入 特定預金への支出	185,684,000	162,133,977	23,550,023
その他の支出	上記以外の支出	30,872,521	27,372,363	3,500,158
[ 予備費 ]	当年度の予備費使用額	( 0 )		
	当年度の予備費の未使用額	19,200,000		19,200,000
資金支出調整勘定	当年度の支出と現預金等の 整合を保つための調整勘定	△ 17,769,746	△ 18,311,501	541,755
次年度繰越支払資金	平成25年度へ繰り越す現預金	579,353,821	603,399,801	△ 24,045,980
支出の部合計		1,878,137,596	1,851,898,271	26,239,325

#### 【資金収支計算書とは】

①当該年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにする。

②当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引出すことができる預貯金)の収入及び支出のてん末を明らかにする。



## 消費収支計算書

平成25年4月 1日から  
平成26年3月31日まで

学校法人 柏専学院

(単位 円)

消費収入の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	入学金、授業料等の納付金	521,042,000	519,695,807	1,346,193
手 数 料	入学検定料、証明手数料など	7,806,000	8,159,560	△ 353,560
寄 付 金	本法人に対する寄付金、 現物寄付を含む	1,773,000	3,618,986	△ 1,845,986
補 助 金	国、地方公共団体などから 交付される補助金	309,858,000	310,850,572	△ 992,572
国庫補助金	国などからの補助金	( 104,447,000 )	( 104,452,712 )	( △ 5,712 )
地方公共団体補助金	県などからの補助金	( 205,411,000 )	( 206,397,860 )	( △ 986,860 )
資産運用収入	預金・有価証券等の利息	14,329,000	14,455,013	△ 126,013
資産売却差額	資金収支の資産売却収入から 売却資産の簿価を引いた差額	0	0	0
事業収入	学生寮の寮費、公開講座・ 受託事業収入等	32,644,000	33,875,000	△ 1,231,000
雑収入	上記以外の本法人への消費収入	28,435,000	34,119,171	△ 5,684,171
帰属収入合計	本法人の純財産を増加させる 収入の合計	915,887,000	924,774,109	△ 8,887,109
基本金組入額合計	教育に欠かさない資産を取得 した場合に組み入れる額	△ 11,348,000	△ 13,060,356	1,712,356
消費収入の部合計		904,539,000	911,713,753	△ 7,174,753
消費支出の部				
科 目	科目の主な内容	予 算	決 算	差 異
人 件 費	教職員、役員等の給与・手当と 退職給与引当金の組入額	708,368,000	708,705,318	△ 337,318
教育研究経費	教育研究のために要した経費 (減価償却額を含む)	337,284,000	334,746,347	2,537,653
管理経費	教育研究経費以外の経費 (減価償却費を含む)	142,782,000	139,427,250	3,354,750
資産処分差額	備品、図書を処分にかかる帳簿 価額との差額	1,200,000	1,051,878	148,122
徴収不能額	未収入金等で当期において回収 不能と判断した額	0	1,785,750	△ 1,785,750
〔 予 備 費 〕	当年度の予備費使用額 (消費収支上の予備費) 当年度の予備費の未使用額 (消費収支上の予備費)	( 0 ) 18,200,000	/	18,200,000
消費支出の部合計		1,207,834,000	1,185,716,543	22,117,457
当年度消費収支差額	当年度の収支差額 [消費収入の部]-[消費支出の部]	△ 303,295,000	△ 274,002,790	/
前年度繰越消費収支差額	平成23年度からの繰り越された 消費収支差額	△ 2,065,115,938	△ 2,065,115,938	/
基本金取崩額	基本金の取り崩し額	0	0	/
翌年度繰越消費収支差額	平成25年度へ繰り越される 消費収支差額	△ 2,368,410,938	△ 2,339,118,728	/

**【消費収支計算書とは】**

当該年度の消費収入と消費支出を対照して収支及び資産の均衡の状態を表す。

**【基本金とは】**

学校法人の継続的な運営のために維持しなければならない基準金額の事。

**【基本金組入額とは】**

学校法人が最低限保有しなければならない財産の額を帰属収入より差引く事。

# 貸借対照表

平成26年3月31日

学校法人 柏専学院

(単位 円)

資産の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
固定資産		( 4,104,682,405 )	( 4,040,758,868 )	( 63,923,537 )
有形固定資産		( 3,243,884,327 )	( 3,332,759,302 )	( △ 88,874,975 )
土 地		865,304,747	865,304,747	0
建 物		1,673,646,833	1,756,686,014	△ 83,039,181
構 築 物		89,843,746	101,406,166	△ 11,562,420
教育研究用機器備品		27,671,265	22,582,819	5,088,446
その他の機器備品		4,212,970	4,997,781	△ 784,811
図 書		577,800,861	576,689,899	1,110,962
車 輛		1,462,205	3,460,176	△ 1,997,971
建設仮勘定	建物等が完成するまでの支出	3,941,700	1,631,700	2,310,000
その他の固定資産		( 860,798,078 )	( 707,999,566 )	( 152,798,512 )
電話加入権		1,685,993	1,685,993	0
敷 金		1,686,000	2,150,500	△ 464,500
有 価 証 券		446,102,224	302,990,248	143,111,976
出 資 金		3,122,500	3,122,500	0
退職給与引当特定資産	用途を定めた預貯金資産	258,547,740	246,910,444	11,637,296
施設設備引当特定資産	用途を定めた預貯金資産	139,554,601	139,552,601	2,000
国際経済人育成特定資産	用途を定めた預貯金資産	6,000,000	7,500,000	△ 1,500,000
第3号基本金引当資産	奨学基金	4,000,000	4,000,000	0
預 託 金	車両リサイクル料	99,020	87,280	11,740
流動資産		( 633,376,080 )	( 943,184,388 )	( △ 309,808,308 )
現 金 預 金		603,399,801	864,958,817	△ 261,559,016
未 収 入 金	年度末に未収となっている収入	25,267,111	75,256,759	△ 49,989,648
短 期 貸 付 金	1年以内に回収の見込まれる貸付	0	0	0
前 払 金	翌年以降の諸活動にかかる支払額	4,309,279	2,696,431	1,612,848
立 替 金	個人負担となるものを立替払した額	0	0	0
仮 払 金	概算払いの額	360,564	161,486	199,078
預 り 預 金		39,325	110,895	△ 71,570
資産の部合計		( 4,738,058,485 )	( 4,983,943,256 )	( △ 245,884,771 )
負債の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
固定負債		( 388,054,775 )	( 372,300,638 )	( 15,754,137 )
長 期 借 入 金	1年を超える借入金	0	0	0
退 職 給 与 引 当 金	将来の退職金の負担額の累計	388,054,775	372,300,638	15,754,137
流動負債		( 89,170,036 )	( 89,866,510 )	( △ 696,474 )
短 期 借 入 金	1年以内の借入金	0	0	0
未 払 金	支出代金等の未払の額	15,624,336	18,020,521	△ 2,396,185
前 受 金	翌年度以降の納付金等	58,456,668	58,667,980	△ 211,312
預 り 金	一時的に受入している額	15,089,032	13,178,009	1,911,023
負債の部合計		( 477,224,811 )	( 462,167,148 )	( 15,057,663 )
基本金の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	教育目的の固定資産取得額	6,435,952,402	6,422,892,046	13,060,356
第 3 号 基 本 金	基金として保持する資産の額	4,000,000	4,000,000	0
第 4 号 基 本 金	恒常的に保持すべき資産の額	160,000,000	160,000,000	0
基本金の部合計		( 6,599,952,402 )	( 6,586,892,046 )	( 13,060,356 )
消費収支差額の部				
科 目	科目の主な内容	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額		△ 2,339,118,728	△ 2,065,115,938	△ 274,002,790
消費収支差額の部合計		( △ 2,339,118,728 )	( △ 2,065,115,938 )	( △ 274,002,790 )
負債の部、基本金の部、 及び消費収支差額		( 4,738,058,485 )	( 4,983,943,256 )	( △ 245,884,771 )

# 財 産 目 録

平成26年3月31日

学校法人 柏専学院

I 資産総額	4,738,058,485 円
内 基本財産	4,104,682,405 円
運用財産	633,376,080 円
II 負債総額	477,224,811 円
III 正味財産	4,260,833,674 円

区 分		金 額
資 産 額		
1 基本財産		
土地	107,071.32 m <sup>2</sup>	865,304,747 円
建物	23,125.24 m <sup>2</sup>	1,673,646,833 円
構築物	91 件	89,843,746 円
教具・校具・備品	5,754 点	27,671,265 円
その他の機器備品	547 点	4,212,970 円
図 書	122,181 冊	577,800,861 円
車 輛	7 台	1,462,205 円
建設仮勘定	1 口	3,941,700 円
その 他		860,798,078 円
2 運用財産		
現金預金		603,399,801 円
その 他		29,976,279 円
資 産 総 額		4,738,058,485 円
負 債 額		
1 固定負債		
退職給与引当金		388,054,775 円
2 流動負債		
短期借入金		0 円
未払金		15,624,336 円
前受金		58,456,668 円
預り金		15,089,032 円
負 債 総 額		477,224,811 円
正 味 財 産 (資産総額－負債総額)		4,260,833,674 円